

平成28年度 水道事業・芦屋病院事業 会計決算報告

平成28年度 水道事業会計決算報告

問い合わせ 水道管理課 ☎38-2080

安心・安全な「おいしい水」を継続的に供給します

平成28年度の給水人口は、94,474人で前年度より429人(0.5%)減少しましたが、1人1日当たりの使用量は、2ℓ増加し293ℓとなったため、料金収入となる有収水量は5千㎥(0.05%)増加して10,114千㎥になりました。

事業収益は、阪神水道企業団への宝塚市加入による特別利益の増加などにより1,622万円(0.8%)増加して21億7,557万円となりました。

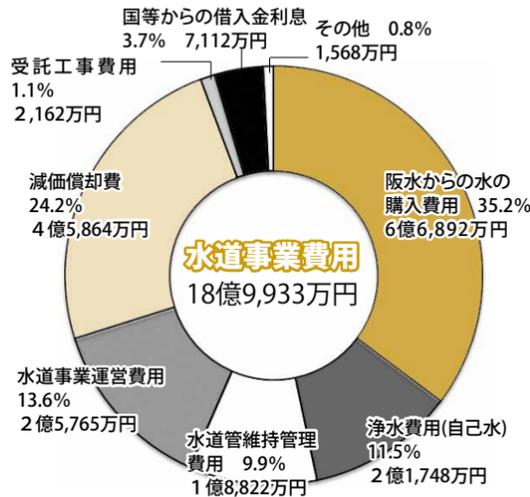
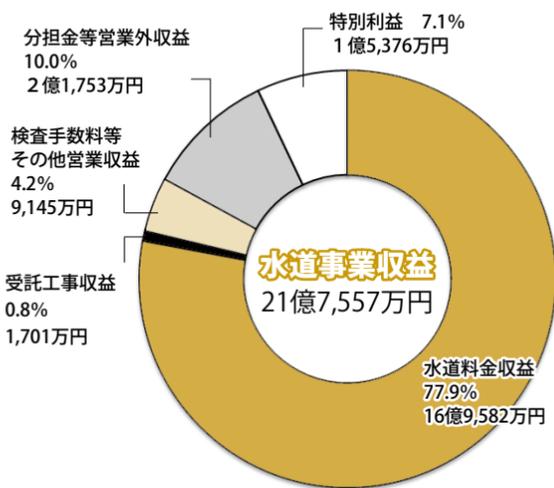
一方、事業費用は、経費削減等に努め4,610万円(2.4%)減少の18億9,933万円で、差引収支は2億7,624万円の純利益となりました。しかし、老朽管の更新工事などを控え経営は依然厳しい状況です。

本市の水道事業では、国道43号老朽管改修工事等を進めたことにより、本市の主要管路の耐震適合率は前年度より1%増加の64%となり、兵庫県平均の40%を上回っています。また、第2中区配水池の耐震化事業にも着手しました。将来計画では、安定的な経営を実現するために「芦屋市水道ビジョン」の見直しや「芦屋市経営戦略」の策定に向けて市民アンケート等を実施しました。

人材育成では、技術研修の充実を図り、確かな技術力で、安心・安全な「おいしい水」を継続的に供給しました。

■決算概要

	平成28年度	平成27年度	増減
職員数	37人	41人	△4人
給水人口	94,474人	94,903人	△429人
総配水量	10,525,746 ㎥	10,425,958 ㎥	99,788 ㎥
自己水量	1,322,746 ㎥	1,363,588 ㎥	△40,842 ㎥
阪水受水量	9,203,000 ㎥	9,062,370 ㎥	140,630 ㎥
有収水量	10,114,040 ㎥	10,108,615 ㎥	5,425 ㎥
有収率	96.09 %	96.96 %	△0.87 %
水道事業収益	21億7,557 万円	21億5,935 万円	1,622 万円
水道事業費用	18億9,933 万円	19億4,543 万円	△4,610 万円
純損益	2億7,624 万円	2億1,392 万円	6,232 万円
その他未処分利益剰余金変動額	0 万円	0 万円	0 万円
期末利益剰余金	2億7,624 万円	2億1,392 万円	6,232 万円



- 総配水量 1年間に芦屋市内へ配水した水の量
- 自己水量 芦屋市の浄水場でつくられた水の量
- 阪水受水量 阪神水道企業団から供給された水の量
- 有収水量 総配水量のうち料金徴収の対象となった水の量
- 有収率 総配水量に占める有収水量の割合
- その他未処分利益剰余金変動額 地方公営企業法施行令等の改正に伴い、補助金等により取得した固定資産の過去の減価償却済額に対応する収益化済額

平成28年度 芦屋病院事業会計決算報告

問い合わせ 芦屋病院 ☎31-2156

患者の生活の質向上を目指し診療機能を充実

平成28年度は、入院患者数63,168人と前年度より2,104人増加、外来患者数82,341人と前年度より466人減少しました。経営状況につきましては、病院事業収益49億714万円、病院事業費用は51億9,920万円で差し引き2億9,206万円の純損失(前年度3億7,358万円)となり、累積欠損金は115億3,692万円となりました。

本年度は本市の二次救急医療機関として「断らない救急」を目指すとともに、専門診療の充実、特に「がん診療」について、予防・診断・治療・緩和ケアに至るまで、がん患者が安心して医療を受けられるよう診療機能の充実に向けて取り組んできました。

具体的には、人間ドックセンター長に専従の医師を配置し、人間ドックを含む検診事業の充実や啓発に取り組み、特定健診における生活習慣病の予防や早期発見に努めました。

また、人工関節センターを開設し、変形性ひざ関節症により、歩行困難、寝たきりとなる高齢者のQOL(生活の質)の改善や介護負担の軽減のための人工関節手術では、膝関節外科を専門とした医師、トレーニングを受けた専従の手術スタッフの配置や手術後の合併症に対応できる内科系専門医師によるバックアップ体制を取り、安心して手術を受けられる体制を確保しました。

医療の質の向上に向けた取り組みでは、新たに誕生した認知症看護認定看護師、慢性心不全

看護認定看護師がチーム医療へ加わり、コメディカル部門においても外来がん治療認定薬剤師や認定理学療法士などの新たな資格取得者が誕生しました。

また、看護師交換研修プログラムとして、4月には芦屋市の姉妹都市であるモンテベロ市(アメリカ合衆国カリフォルニア州)にあるビバリー病院へ看護師が赴き、また11月には、ビバリー病院の看護師が来院し、保険制度や医療の違い、地域における公立病院の役割などについて学びました。

その他の診療機能の充実としましては、禁煙外来を開設し、ニコチン依存症患者が、無理なく禁煙ができるよう、医師や看護師がカウンセリングやサポートを行っております。

■決算概要

	平成28年度	平成27年度	増減	
入 院	延べ患者数	63,168人	61,064人	2,104人
	1日平均患者数	173.1人	166.8人	6.3人
	病床稼働率	87.0%	83.8%	3.2%
外 来	延べ患者数	82,341人	82,807人	△466人
	1日平均患者数	338.9人	340.8人	△1.9人
	診療日数	243日	243日	0日
病院事業収益	49億714万円	47億3,500万円	1億7,214万円	
病院事業費用	51億9,920万円	51億858万円	9,062万円	
純損益	△2億9,206万円	△3億7,358万円	8,152万円	
累積欠損金	115億3,692万円	112億4,486万円	2億9,206万円	

